

## 心理学

責任者・コーディネーター	人間科学科心理学・行動科学分野 藤澤 美穂 講師		
担当講座・学科(分野)	人間科学科心理学・行動科学分野		
対象学年	1	区分・時間数	講義 12時間
期 間	前期		
単 位 数	1単位		

### ・学習方針（講義概要等）

心理学は「こころ」の科学的理解を通して人間を探求する学問であり、実験、調査、観察および事例研究等を通じた人間行動解明へのアプローチがなされる。本科目においては、心理学の歴史を学ぶと同時に、基礎と応用の両視野から理解する。そして学習心理学、認知心理学、社会心理学、臨床心理学、産業心理学および青年心理学の知見をもとに、「こころ」の働きおよび行動への影響を考える。本科目の学修を通じ、独自性と多様性の尊重と、個人と社会の相互作用の理解を身に付ける。

### ・教育成果（アウトカム）

1. こころの科学である心理学の知識を幅広く学び、ものごとを心理学的視野により説明することができる。
2. こころと行動の理解を通して、個人・社会において生じる現象を相互作用的にとらえ、説明することができる。
3. 見えない“こころ”を理解するための多様な方法を学び、現象の背景を探求するための視点を獲得することができる。

#### 【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロマ・ポリシー：1, 2, 5, 7

### ・到達目標（SBO）

1. 学習や記憶のプロセスを心理学的視野から理解し、説明できる。
2. こころのありようを考えることを通し、人間理解の多様な視点を身につけることができる。
3. 個人と他者、個人と集団の相互作用について理解し、説明ができる。
4. 自分の「こころ」への興味関心を高く保つことができる。
5. 多様な価値観や人生観を有している人々を尊重する行動をとることができる。
6. 集団の構造と機能、グループダイナミクスについて説明できる。
7. 人的・物理的環境が健康に及ぼす影響について説明できる。
8. 職場の特性や健康課題を把握する方法について説明できる。
9. 個人・家族・地域のメンタルヘルスを促進する取り組みについて説明できる。

・ 授業日程

(矢) 西 1-A 講義室

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	授業内容/到達目標
4/22	金	1	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 講師	<p>心理学とその歴史 【双方向授業】【ICT(Mentimeter)】</p> <p>1.心理学の誕生までの歴史を説明することができる。</p> <p>2.見えない“こころ”へのアプローチ法について、述べるができる。</p> <p>事前学修：教科書 1～12 ページを読んでおく。</p> <p>事後学修：講義資料を復習する</p>
5/6	金	1	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 講師	<p>心理学でいう「学習」について 【双方向授業】</p> <p>1.心理学の「学習」の定義を述べるができる。</p> <p>2.古典的条件づけについて説明できる。</p> <p>3.オペラント条件づけについて説明できる。</p> <p>4.行動主義とそれまでの心理学との関係について、述べるができる。</p> <p>事前学修：前回講義で出された課題に取り組む。</p> <p>事後学修：講義資料を復習する。</p>
5/13	金	1	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 講師	<p>認知心理学-特に記憶について 【双方向授業】</p> <p>1.認知理論が重視されるようになった経緯を説明できる。</p> <p>2.記憶のモデルについて説明できる。</p> <p>3.Miller の直接記憶範囲について説明できる。</p> <p>4.知覚的防衛について、説明できる。</p> <p>事前学修：前回講義で出された課題に取り組む。</p> <p>事後学修：講義資料を復習する。</p>

5/20	金	1	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 講師	<p>社会心理学の視点から「集団」を考える【ICT(WebClass)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.認知的一貫性理論について、身近な例を当てはめ説明することができる。</li> <li>2.同調行動について、説明できる。</li> <li>3.パーソナル・スペースについて、説明できる。</li> </ol> <p>事前学修：教科書 182～195 ページを読んでおく。  事後学修：WebClass での確認テストに取り組み、結果のフィードバックを受ける。  講義資料を復習する。</p>
5/27	金	1	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 講師	<p>臨床心理学の基礎</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.臨床心理学の歴史を説明できる。</li> <li>2.臨床心理学の主要 4 領域を述べることができる。</li> <li>3.欲求と葛藤について、説明できる。</li> <li>4.愛着について、説明できる。</li> <li>5.多職種連携にかかわる心理職（公認心理師・臨床心理士等）の職能について理解し、説明できる。</li> </ol> <p>事前学修：教科書 116～124 ページを読んでおく。  事後学修：講義資料を復習する。</p>
6/3	金	1	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 講師	<p>ストレスの心理学【双方向授業】 【ICT(WebClass)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.ストレスの定義を述べることができる。</li> <li>2.ストレスに関するところと身体的相关性を説明できる。</li> <li>3.心理的ストレスプロセスモデルについて説明できる。</li> </ol> <p>事前学修：現代人のストレスについて、インターネットで調べる。  事後学修：WebClass での確認テストに取り組み、結果のフィードバックを受ける。</p>

6/10	金	1	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 講師	<p>働くことの心理学 【双方向授業】【ICT(Mentimeter)】</p> <p>1.職業性ストレスモデルについて説明できる。 2.バーンアウトについて説明できる。 3.ワーク・エンゲイジメントについて説明できる。 4.ワークライフバランスについて、自身の意見を述べることができる。</p> <p>事前学修：仕事におけるストレスについてまとめておく。どういう職場環境で働きたいかまとめておく。 事後学修：講義資料を復習する。</p>
6/17	金	1	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 講師	<p>思春期青年期の理解【双方向授業】</p> <p>1.思春期と青年期の概念を理解し、述べることができる。 2.恋愛にかかわる感情の動きを理解し、相手を尊重した関係の重要性を述べることができる。</p> <p>事前学修：教科書 179 ページを読み、まとめておく。 事後学修：講義資料を復習する。</p>

・教科書・参考書等

教：教科書      参：参考書      推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	図説心理学入門 第2版	齊藤勇（編）	誠信書房	2005
参	心理学ビジュアル百科 基本から研究の最前線まで	越智啓太（編）	創元社	2016

・成績評価方法

試験の成績を 50%、レポートの評価を 30%、授業中に実施するワークへの取り組みを 10%、確認テストの成績を 10%として評価する。ワークへの取り組みは、提出（入力）されたワーク内容を対象とする。評価は初回講義で示す「ワークシート評価基準」に従い評価する。

・特記事項・その他

**【事前事後学修の具体的内容及び時間】**

講義については、シラバスに記載されている講義内容／到達目標を確認し、指定された事前学修課題、及び教科書該当箇所を読み予習をおこなった上で臨むこと。講義中、事前学修内容を WebClass に入力・提出する時間を設ける。各回講義に対する事前学修の時間は最低 30 分以上を要する。事後学修については毎回配布される講義資料（レジュメ）等を用いておこなうこと。各回講義に対する事後学修の時間は最低 30 分以上を要する。

**【事前学修・事後学修のポイント】**

事前学修：次週の内容として示された箇所を、教科書を中心に予習をすること。

事後学修：わからなかった内容は、講義にて示した教科書の該当箇所を確認し理解を深めること。また興味をもった箇所は図書館の文献などで調べること。

**【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】**

本科目は、一般的な講義に加えて双方向的な対話を適宜取り入れ進行する。また WebClass によるワークやコメント入力を求める回を設定する。回答については、内容を踏まえ、翌回の講義で解説をおこなう。

WebClass での確認テストを実施する回を設定する。結果は WebClass にてフィードバックする。

講義時間中に、各自のデバイスから参加できるリアルタイムフィードバックツールを用いて他学生の考えを確認、共有する。Mentimeter を使用する予定のため、スマートフォン、タブレット、PC のいずれでも参加可能である。

学生からの授業に対する質問・意見については、WebClass メッセージより随時受け付ける。授業内容に関する質問・要望は、翌回の講義にて追加説明をおこなう。

定期試験の後にフィードバックとして補講等を実施する。

**【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】**

看護師（別表 3）：基礎分野 人間と生活・社会の理解

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノート型 PC (MacBook Air MD711J/A)	1	講義資料の提示
講義	プロジェクター	1	講義資料・教材の提示
講義	DVD (BR)プレーヤー	1	教材の提示
講義	書画カメラ	1	教材の提示
講義	デスクトップ PC (iMac (Retina 5K, 27-inch, 2017))	1	講義資料の作成